

を通して、高齢者の方々が持つ技術や人柄のすばらしさを感じとったり、高学年に向かた人権教育に生かすことを願い、子どもたちとわら草履を編むことになった。

② ねらい

○とみ子先生（高齢者の方）の優れた知識や技能に学び、とみ子先生の人柄に触れ、温かさ・優しさを感じとることができる。

○自分の力で作り上げることにより、自分のわら草履に愛着を持つと同時に、作れたという充実感を持つことができる。

○わら草履を作り上げる活動を通して協力することの大切さに気付き、みんなで完成を喜ぶことができる。

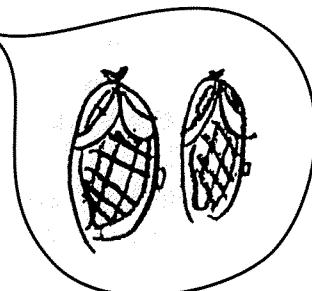
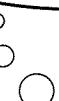
③ とみ子先生と子どもたちの関わり

教師・子どもの姿	とみ子先生の話
○とみ子先生に相談 「1年生がわら草履を本当に作れるか心配」（担任） ↓ 教師の姿勢であることを感じさせられる。集会所へ出かけ、4回とみ子先生に担任は講習を受ける。	「大丈夫、グループを作りひもをみんなの手で持ち合ってやれば1年生だって十分できますよ。いいじゃないですか。曲がったりゆがんだりした草履ができるっていいじゃないですか。 それともう一つ言いたいことは、まず担任の先生が作れるようになっておくこと。私が中心に教えますが、手伝ってもらう場面がでてくるかもしれないですね。」
○草履づくり ・グループに分かれて協力して作る。 ・できたところから履いてみる。 ・歓声を上げる子どもたち。	◇「みんなで協力してやるんだよ。みんなで周りをもって交代でこうやって通すんだよ。」 ◇「できたところから履いてごらん。」
○とみ子先生から一人ひとりへ草履のプレゼントをいただき感激する。	 <p>とみ子先生の草履にかける願い・思い</p>
○話を聞き、それについての日記を書いてきた。 T男…作っているときはうれしかったよ。 おうちにかえってはいてみたらあたたかかったよ。ぞうりはきちんとそろえているよ。	二つお話しするね。一つはこの草履はわらではないので濡らすと弱いから家の中で履くんだよ。

H子…とみ子先生、ぞうりをつくってくれてありがとうございます。おうちにかえっていっぱいはいていますよ。あたたかいよ。きもちいいよ。あか、きい、みどり、いろいろないろでうれしかったよ。ありがとうございます。

Y男…ぼくは、ぞうりはつくえのうえにのせています。じぶんのいえのつくえにのっています。だいじにだいじにおいてあります。とみこせんせいにあえてほんとうにうれしかったです。おしえてくれてありがとうございます。またあおうね。

昔は藁だったから濡らしても乾かせばよかった。丈夫だったんだよ。もう一つはね。草履を脱ぐときそろえて脱ぐんだよ。そうすると気持ちが落ち着くんだよ。寝る前、ベッドに入るときなどは、「今日一日ありがとう」と言いながら、草履をそろえるんだよ。大切にしてね。



活動から数日後、とみ子先生の店に1年生がお母さんと運動着を買いに来た。その時の様子をとみ子先生にお聞きし子どもたちに話す。

子ども達に話した内容

店に親子連れが入ってきたと思ったら、「とみ子先生だ。お母さん、草履づくりを教えてもらって、それをプレゼントにもらったとみ子先生。」と、子どもが言いますよ。そして、続けてお母さんが、「そうですか。先生に教えていただいたんですか。ありがとうございます。大事に草履を履いて揃えています。他の普段のくつまで揃えるようになりました。よかったです。」と言ってくれ、本当にうれしくなっちゃいました。

—それを聞いた子ども達の反応—

- 「ぼくもそろえているよ。」
- 「わたしも。」
- 「また、おしえてほしいなあ。」
- と、口々に話す子どもたち。

(3) 事例3 「必ずできるから頑張るんだよ」 (むぎさんのへんしん)

①設定理由

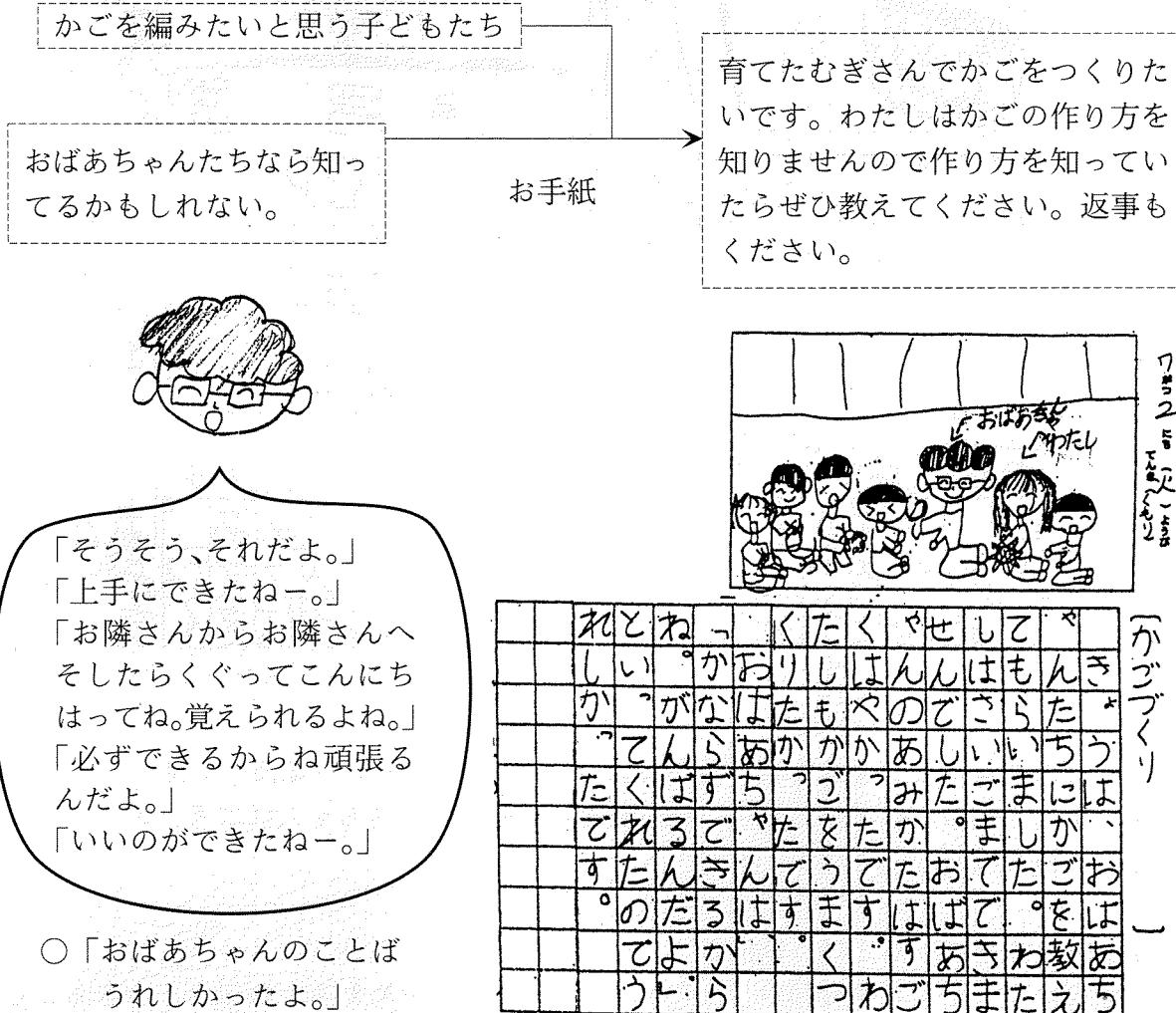
春におばあちゃんたちとよもぎだんごを作って楽しんだ子どもたちが、改めておばあちゃんたちの持つ技に感動し、自分たちの摘んだよもぎだんごと一緒に楽しんだ。

昨年度から育っている麦の収穫の時期を迎え、自然の恵みや周りの人々への感謝の気持ちを高め、いっそう地域のお年寄りの方々と交流を重ねることで活動の幅を広げたいと考えた。「むぎさんのへんしん」でむぎわらを使って好きなものを作り、お年寄りから教わったり、一緒につくったりして楽しむことができたらと考えた。

②ねらい

- 麦を育て、おばあちゃんの技のすばらしさにふれたり、自分の生活に生かそうとする。
 - むぎさんのへんしんでおばあちゃんと関わりながら、気付き感じたことを友だちに紹介したり、ふりかえったりして共に活動する楽しさを味わうことができる。

③おばあちゃんと子どもたち



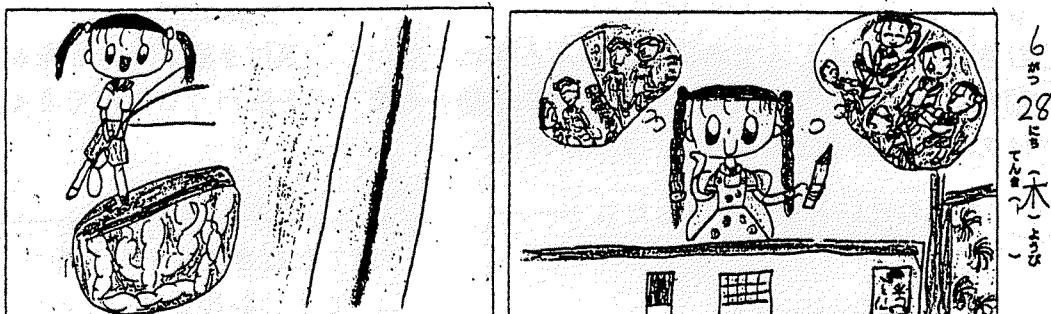
◇育てた麦で、どうしてもかごをつくってみたいと思ったY子は、「よもぎだんごのおばあちゃんに聞いたら分かるかもしれない。」と自分から関わっていく姿が見られるようになってきた。おばあちゃんたちは、「いいのができたねー。上手だよ。」「必ずできるからね。頑張るんだよ。」とプラス思考の励ましや「ここはねお隣さんからお隣さんへ、こんにちは。そうしたらお隣さんが下を通ってお隣さんへ行くんだよ。」と難しいものでも具体的に子どもに分かりやすく、つくりやすく教えてくれた。

5 評 価

(1) より良い人間関係の築き

- 「今度いっしょにつくろうね」「教えてね」「どんなことが好きですか」一人ひとりが楽しみながら共通の体験をしながら仲間づくりをする中で、周りの人や友だちから素直に学び、同時に働きかけようとする姿が育ってきている。

○「むぎさんのへんしん・かごづくり」(2年生の7月、おばあちゃんたちと)



思てる ゃりけちめしな いをよん よなにはたか まうとくい 、いら すまに すよめおで 。も、楽る ういばすり帰 りこし。こわあ。れ たのくお、くちさる い、つばきを、やんよ とめくあ、よ、んばう 、あれちうかたんに	樂 やうかつかう考り や しndaをめづえたんわ かたつ、は考maiとナ ちめし、えしの、し たがはなはまたでかは な、いんし。こ およでためめをお とよばう、ああ、ば 思うあにけひててつあ いはち。んとはをくち
	「むぎさんのへんしん」

おばあちゃんとつくるとき「今日はよかったです。」という気持ちで帰るように、お互い楽しく作るにはどうしたらいいのか考え、相手の気持ちを大切に考えようとしている姿が見られた。

(2) 共に生きているという気持ち

○学習ボランティアをお願いした高齢者の方には、子どもたちと根気よくつきあっていただきたい。また豊かな人生経験をもとに、子どもたちの心を察知して対応してくださったり、いつも認める温かい言葉をかけてくれたりと的確な言葉がけにより感性が磨かれていった。お年寄りと子どもたちが一体となって、一つのものを製作している姿の中に安心した子どもの言動がみられた。それがまた子どもたちの力となり、生活の中に少しずつ根付いていき、子どもたちの活動においても、友だちを認める言動が増えってきた。

○「お月見をしよう」(2年生の10月、保育園との交流で)

おばあちゃんたちと作った『よもぎだんごづくり』の時のことをもとに、自分たちでおだんごの作り方を調べ、お月見のおだんごを作った。保育園の子どもたちをお月見会によんで、おばあちゃんたちに教わった技を生かし、おだんごを作ったり一緒に楽しんだりした。高齢者の方々との交流をもとにおだんご作りでは、おばあちゃんたちに自分たちがやってもらったように、相手を認め、思いやる言葉がけができるようになってきた。

Y男は、おだんごを丸めて見せたが、隣の園児が「うまく丸められなくて困っているなあ」と気付いた。



手を出したり、やってあげたりすることが思いやりではない。Y男は、いつも相手を気にしながら、「ここが困っているなあ」と思ったら相手ができそうなものをやって見せ、「一人できそうになったな」と判断するとあとは相手に任せ自分のことをする。また、お手ふきも「つかいな」ではなく「つかってもいいよ」と声掛けをしている。命令形でなくえらい。相手を大切にする言葉掛けが身に付いてきている。

(3) 相手意識を持っての活動

○感謝の会の時、カブトムシをいただいた〇〇園のおじいさんに「今、カブトムシさんは、山の中のふわふわベットで寝ているんだよ。冬、元気に生きるためにふわふわのベットが必要なんだよ。秋作ってあげるんだよ。また、夏になったらあげよう。」というお話を聞きし「カブトムシさんのおじいちゃん。ちゃんと育てるからね。」と言って、子どもたちは、おじいさんの願いに応えていた。

○「よもぎだんご作り」(2年生の5月、おばあちゃんたちと)

キティパークで摘んだよもぎでおばあちゃんたちとよもぎだんごを作った。教わりながら作ることが大部分だったが、一緒に作ったり味わったりしながら話がはずんだ。おばあちゃんの書いた、「なかよしみんなのえがお」の言葉に感動し、気持ちが分かることもたちになってきた。

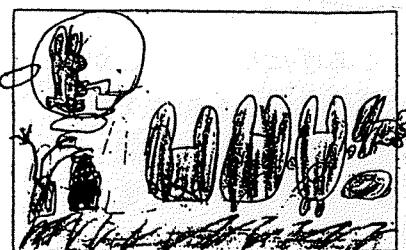


ますか	いいにの話たんかく	いなてばまんはれい
せれ	おなておしゃりと	うてもんしたじた
ん。	かくはかにいたて	今
く	でよれありまよと	しきらはにちめお
く	すぐたちたる。	日
く	いみこよとあおて	よよい
く	火と人。たにはま	かてばまは
く	しなばかさてりつあお	ううま山わ
く	のはいきくちい	12やあに
く	うえかごたお?	け力し本たるさ
		ほ
		人じたさしきおんくう
		めあ。んたてばたと
		いみにちくあちてう
		つてんやうれさく

(4) 自尊感情の高まりと自己表現力

- 体験活動をする中で、多くの人々とかかわって感じたことや思ったことを、絵や文、お知らせレター等でのびのびと表し、自分自身をふりかえる機会としてきた。活動後の振り返りを大切にすることにより、高齢者の方々の良さ、友だちの良さ、また自分自身の良さにも気づき、自己表現する力も伸びてきていると思われる。
- 「保育園とのなかよし会」(2年生10月)

相手を思いながら、相手も自分も楽しいということの大切さに気づき、そのために自分はどうしたらよいか考えている。

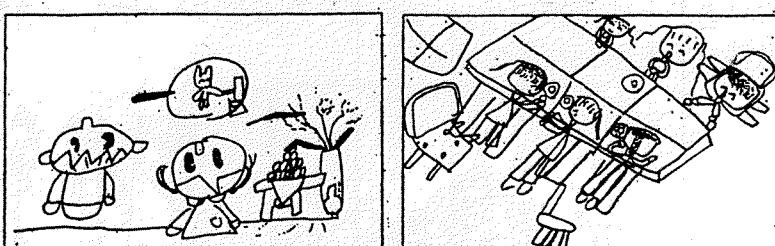


なごいのふや	のほまちいいけにい
くそなしんせ	て、す、や、んちも、のわ
ちの、人いん	、ふ、い、じ、たい、め、た
やたとできせ	ほんそけ、の、あ、し
ねめお、をい	いい、れ、な、に、な、し、た、て、の
。に、も、て、い、が	く、き、か、い、樂、く、ま、け、は、な
ほ、い、も、し	え、が、ら、と、し、て、せ、ど、か
が、ま、ら、ば、せ	ん、か、わ、お、ま、自、れ、ひ、み、よ
ん、じ、い、い、ん	の、く、た、も、な、分、ば、と、ん、じ
ほ、だ、だ、だ、の	人、な、し、い、く、も、い、が、な、か

[なかよしがのめあて]

○「お月見会をしよう」

保育園のお友だちにやさしい言葉がけができたり、「楽しかったなあ」と思ってもらったりしたことに満足すると共に、同級生の頑張っている姿に気付き認めてることで「自分もやってよかったなあ」とよい気持ちになれた。



と、日、て、た、あ、て、つ、み、い、て、て、る、き、ち、ま、お、て、	ん、あり、ん、ま、よ、く、
思、は、い、。、も、く、ん、ま、も、り、あ、め、に、や、し、て、る、お、	か、と、と、き、の、ぬ、し、ん、え、わ、
い、た、み、た、か、な、し、じ、ろ、け、ら、ん、た、る、ね、だ、	な、思、し、子、た、た、で、ん、た、
ま、と、と、ん、な、ん、て、か、だ、う、の、ま、れ、ー、か、。、き、ー、ん、	り、い、て、と、し、。、の、し、
し、て、思、な、ば、い、た、。、ず、の、し、る、じ、ま、そ、を、と、こ、	の、ま、‘、お、は、お、お、た、
た、も、い、も、と、る、の、わ、に、く、た、ね、よ、る、し、か、い、べ、	し、よ、だ、‘、月、と、ち、
い、ま、そ、思、た、の、し、た、ま、ん、ー、う、め、て、し、た、	只、た、か、ん、ほ、見、も、は、
い、す、う、い、か、で、そ、し、る、は、と、す、て、れ、て、た、べ、	子、。、ご、い、会、た、‘、
日、。、思、あ、い、う、は、め、。、に、る、い、あ、の、た、	ち、だ、づ、く、ま、ち、ほ、
た、今、。、し、か、と、に、て、と、。、ま、と、な、げ、で、し、	や、な、く、え、し、き、い、

[お月見会]

6 成果と課題

【成果】

- 体験活動に浸り切る中で、体験したことや人との関わりを絵や文章に表現したり、自分自身をふり返ったりすることを大切にしてきた結果、自己表現力が身に付くようになってきた。
- 一人ひとりが楽しみながら共通の体験をし、仲間と関わる中で、周りの人や友だちから学び合い、他に働きかけようとする姿勢が育ちつつある。また、活動を続けることにより、「相手を大切にすることは、自分も大切にすることである」また、「人に楽しんでもらうには自分が楽しくなくてはならない」ということに気付いてきている。
- 学習ボランティアをお願いしたお年寄りには、子どもたちと根気よくつきあっていただいた。また、豊かな人生経験をもとに子どもたちの心を察知していただくことが多く見られ、的確な言葉掛け、どんな失敗も認めていく言葉に子どもたちの心も豊かに育まれてきている。

【課題】

- 生活科を通してよく外に出かけた。自分の住んでいる地域を少しでも多く見つめることができたらと思い、人・もの・自然と関わり、体験したことを大切にしながら地域の人たちとのつながりを多くしてきた。
しかし、そのような中で、子どものつぶやきや興味関心のあるものをとらえ、子どもたちの気持ちにできるだけ添いながら、先を見通した指導を行う必要がある。

